

1 本年度の重点教育目標

自分の成長を実感する子～笑顔で学ぶ日吉っ子～
 「笑顔で学ぶ日吉っ子」《3づくり》
 (1) 一人一人に応じた多様で質の高い学びを引き出す授業をつくる (授業づくり)
 (2) 個性や特性を生かした支持的風土に溢れた学級をつくる (学級づくり)
 (3) 互いに認め合い、心に寄り添う望ましい人間関係をつくる (人づくり)

2 本年度の取組の重点

①連携と協働 ②特色ある教育課程 ③強みを生かした学校づくり ④いじめ・不登校対応 ⑤業務改善

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見 (改善策など)
(1) 連携と協働	①保護者・地域住民との連携 ②校内組織の連携・協力 ③コミュニティ・スクールによる連携 ④中学校区による小中一貫教育の推進	b	本年度も、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、学校運営協議会の開催を始め、具体的な活動を十分に行うことができなかった。次年度は、地域コーディネーターの発掘に取り組んでいきたい。	B	B	
(2) 特色ある教育課程	①授業改善 ②学力保障 ③年間指導計画と授業内容 ④学習環境の最適化 (学習規律・指導過程・教室設営) ⑤指導計画の工夫 (柔軟な指導体制) ⑥新学習指導要領への実施 ⑦教育課程の評価・改善	b	北海道教育委員会、函館市教育委員会の指定事業である「授業改善プロジェクト推進事業」の連携校として、授業改善の取組を継続して行うことができた。 新学習指導要領全面実施を迎え、プログラミング教育を校内研究のテーマとして取り組むことができた。	A	B	
(3) 強みを生かした学校づくり	①三者の連携強化 (特支・言語・通級) ②「子ども支援委員会」の充実 ③表現活動 (歌) の充実 ④課外活動への協力	a	丁寧な生徒指導 (児童理解や教育相談等) が行われるとともに特別支援教育の効果的手法により通常学級に在籍する特別な支援が必要な児童への指導が充実している。	A	B	
(4) いじめ・不登校対応	①未然防止の取組 ②不登校への対応 ③不登校への関係機関との連携	b	各種の取組 (道徳指導の充実、年3回のいじめアンケートや「学級経営・子ども支援交流会」、日常の情報交流等) をしてきた。また、不登校傾向にある児童に対しては全校的な体制で支援に当たり、保護者を含めて面談や関係機関 (南セ・子ども未来部・児童相談所等) との連携が成果をあげている。	A	B	
(5) 業務改善	①長時間勤務の解消 ②業務内容の精選 ③関係機関との連携 ④校務の ICT 化	b	教員本来の業務とは、「学習指導・生徒指導・進路指導・学級経営・学校運営」のこと。効率的な業務の在り方についての見直しは今後も一層必要であり、結果として勤務時間の縮減 (適正化) につなげていきたい。	B	B	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。